

# Jugend Phil; 12

Rimsky-Korsakov & Stravinsky

## ご挨拶

本日は、ユーゲント・フィルハーモニカー第12回定期演奏会に足をお運びいただき、誠にありがとうございます。

本年で12年目を迎える当団ですが、今シーズンは新たな試みとして福島県福島市での地方公演を実施しました。創団当初からの団員の経験値に、新たな若い世代の団員のエネルギーを加えることで、一層充実した1年間を送ることができたように感じています。これからもユーゲント・フィルらしく、挑戦する心を忘れずに活動していきたいと考えています。さて今夜は、5度目の共演となります三河正典先生の指揮のもと、絢爛華麗なオールロシアプログラムをお送りします。難曲揃いではありますが、ユーゲントらしい個々の輝きと、12年間で培ったオーケストラ全体としての団結力を発揮できるよう、鋭意練習を重ねてまいりました。どうか最後までお楽しみいただければ幸いです。

最後になりますが、今回ご指導いただきました三河先生をはじめ、演奏会にお力添えいただいた皆様、そしてご来場いただいた皆様に厚く御礼を申し上げます。今後とも当団の活動に対してご愛顧を賜りますよう、どうぞよろしく申し上げます。

ユーゲント・フィルハーモニカー 代表 湯田怜央奈

---

### プログラム

---

リムスキー＝コルサコフ：スペイン奇想曲 作品34

ストラヴィンスキー：バレエ組曲《火の鳥》（1919年版）

－ 休 憩 －

リムスキー＝コルサコフ：交響組曲《シェヘラザード》作品35

指揮 = 三河正典      コンサートマスター = 清水貴則

---

開演中は携帯電話の電源をお切りください。

他のお客様のご迷惑となりますので、演奏中のお席の移動はご遠慮ください。

未就学児をお連れのお客様は、モニタールームにてご観覧ください。

〈指揮〉 三河正典



東京藝術大学作曲科および指揮科に学んだのち、パリ・エコール・ノルマル音楽院に留学、満場一致の首席で卒業。作曲を北村昭、佐藤眞、近藤謙、池野成の各氏に、指揮を小林研一郎、松尾葉子、秋山和慶、河地良智、ドミニク・ルイッツの各氏に師事。さらに、ムスティスラフ・ロストロポーヴィチの元で研鑽を積む。第4回ブルー・ダニューブ国際オペラ指揮コンクール第4位、審査員特別賞受賞。ブルガス歌劇場（ブルガリア）にてヴェルディ作曲「椿姫」を指揮。これまでに日本フィルハーモニー交響楽団、読売日本交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢、京都市交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、群馬交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、サンクトペテルブルグ交響楽団、ロシア・トムスクフィルハーモニー交響楽団、サンクトペテルブルグ・カルペ・ディエム室内管弦楽団、パザルジク交響楽団（ブルガリア）、浙江交響楽団（中国）、小田原フィルハーモニー交響楽団、湘南弦楽合奏団、ヴォーチェ・ソナーレ（合唱）など、国内外のオーケストラ、合唱団を指揮するほか、新国立劇場、二期会をはじめとするオペラ公演や、サイトウキネンフェスティバル、アルゲリッチ音楽祭などで合唱指揮者、アシスタントコンダクターとしても活動している。現在、東京藝術大学および東京音楽大学、同大学院指揮科、声楽科（オペラ）講師を務め、後進の指導にもあたっている。ユーゲント・フィルには2013年から第7回、第8回、第9回、第11回定期演奏会に客演。今回で5度目の共演となる。

ユーゲント・フィルハーモニカー



Jugend Philharmoniker（ユーゲント・フィルハーモニカー）は、一般財団法人日本青年館の音楽行事（全国高等学校選抜オーケストラフェスタ、全日本高等学校選抜オーケストラ・ヨーロッパ公演、日本ユングオーケストラ・ヨーロッパ公演）に参加したメンバーが中心となって2006年3月に創設されたオーケストラである。全国各地の様々な高校や大学オーケストラ出身のプレイヤー約80名が集まり、東京を拠点として活動している。3月の定期演奏会を中心に、福祉施設や普段生のオーケストラに触れる機会のない農村への訪問演奏、地方公演、行楽施設の各種イベントやテレビ番組での依頼演奏など幅広い活動を行っている。音楽的に、そして人間的に成熟した団体作りに励みながら、「アマチュア・オケだからできること（≠プロオケには出来ないこと）」を追求している。

# 曲紹介

## 師匠リムスキー＝コルサコフ と 弟子ストラヴィンスキー

ユーゲント・フィルハーモニカー初となるオール・ロシア・プログラムを飾るのは、リムスキー＝コルサコフとストラヴィンスキー。二人は1902年からリムスキー＝コルサコフが亡くなるまでの6年間、固い師弟関係にあった。リムスキー＝コルサコフは、自身がペテルブルク音楽院の教授であるにも関わらず、ストラヴィンスキーの性格や能力を鑑みて音楽院には入らないよう勧め、熱心にプライベート・レッスンをしたのだ。後年、ストラヴィンスキーはこう語る。「私ほどリムスキー＝コルサコフと親しい関係にいた人間はほとんどいないでしょう。ことに私の父親の死後、彼は私にとって養父のような存在でした。」

### 1) リムスキー＝コルサコフ (1844～1908) : スペイン奇想曲 作品34

すでにロシア五人組の一人として帝国を代表する作曲家であったリムスキー＝コルサコフによって、スペインの民謡をもとに作曲された。当初は超絶技巧的なヴァイオリン独奏とオーケストラのための作品を予定していたが、最終的にはオーケストラ作品となった。初演前のリハーサルで、弦楽器や管楽器の聞かせどころに富むこの作品をマリインスキー劇場管弦楽団の団員たちが大絶賛したため、喜んだリムスキー＝コルサコフはこれを団員に捧げたという。1887年にサンクト・ペテルブルクにて作曲者自身の指揮で初演された。

第1曲 アルポラーダ	第4曲 シェーナとジプシーの歌
第2曲 変奏曲	第5曲 アストゥリアス地方のファンダンゴ
第3曲 アルポラーダ	

### 2) ストラヴィンスキー (1882～1971) : バレエ組曲《火の鳥》(1919年版)

昨年ユーゲント・フィルが演奏したラヴェル作曲の《ダフニスとクロエ》と同じく、セルゲイ・ディアギレフの率いるロシア・バレエ団のために作曲された。1909年にパリでバレエ初演され、その楽譜はリムスキー＝コルサコフの息子アンドレイに献呈された。今夜演奏される1919年版は、バレエ版から作曲者自身が演奏会のために抜粋し、さらに楽器の編成をコンパクトにしたものである。台本は、ロシアの2つの民話をもとに、振付師のミハイル・フォーキンが中心となって書いた。王子イワンは狩りの最中に魔王カステイの庭に迷い込み、捕まえようとした火の鳥を逃がす代わり

にその羽根をもらう（第1～3曲）。そこに宮殿からカスチェイに囚われた13人の姫が現れロンドを踊り、イワンはその一人ツアレヴナと恋に落ちる（第4曲）。姫たちが宮殿に戻り、残されたイワンはカスチェイに挑む覚悟を決めて宮殿に乗り込む。怒り狂ったカスチェイの魔法で石にされる寸前（第5曲）、先の羽根を投げ放つと火の鳥が現れ、その助けでカスチェイは眠り込む（第6曲）。庭にある金のりんごの木のなかにカスチェイの不死身の力を司る卵があることを知らされたイワンは、その卵を割る。するとカスチェイの魔法がすべて解け、イワンとツアレヴナは結ばれ歓喜に包まれる（第7曲）。

若きストラヴィンスキーの出世作となったこの音楽には、師匠リムスキー＝コルサコフへの敬意が込められている。たとえば〈王女たちのロンド〉や〈終曲〉の旋律は、師が収集・編纂したロシア民謡集から取られているし、ストラヴィンスキー自身、楽器の扱い方や和声の選び方には師の手法を意識したところが多いと語っている。《火の鳥》という作品を通じて、師匠が弟子を世界の音楽界へと送り出したとも言えるだろう。

- |                      |                   |
|----------------------|-------------------|
| 第1曲 序奏               | 第5曲 魔王カスチェイの凶悪な踊り |
| 第2曲 火の鳥の踊り           | 第6曲 子守歌           |
| 第3曲 火の鳥のヴァリアシオン      | 第7曲 終曲            |
| 第4曲 王女たちのロンド（ホロヴォード） |                   |

### 3) リムスキー＝コルサコフ：交響組曲《シェヘラザード》作品35

《スペイン奇想曲》の翌年に完成された《シェヘラザード》は、『千夜一夜物語』が題材となっている。ペルシア王のシャハリアルは前妻に裏切られたことで女性不信に陥り、一夜を共にした女性の首をはね続けていた。新たに妻となったシェヘラザードはその悪習を止めるべく、命がけで王に毎晩おとぎ話を聞かせる。

リムスキー＝コルサコフは、おとぎ話の内容よりも、その語り手であるシェヘラザードと聞き手のシャハリアル王に焦点を当てている。ヴァイオリン独奏で叙情的に奏でられるシェヘラザードのテーマと、冒頭の力強い王のテーマが、その他の人物や場面を象徴する音楽的要素と絡み合いながら、4つの楽章を通して千変万化する。

この組曲は1888年にリムスキー＝コルサコフの指揮でサンクト・ペテルブルクにて初演された。彼の死後1910年には、弟子の《火の鳥》と同じように、ディアギレフのプロデュースとフォーキンの振付によってパリでバレエ上演されている。

- |                              |
|------------------------------|
| 第1曲 海とシンドバッドの船               |
| 第2曲 カランダール王子の物語              |
| 第3曲 若い王子と王女                  |
| 第4曲 バグダッドの祭—海—船は青銅の騎士のある岩で難破 |

（中村伸子 元団員・音楽学）

## 今期の活動紹介

### 2017年

3月25日 第11回定期演奏会（すみだトリフォニーホール 大ホール）

8月12日 福島公演（福島市音楽堂 大ホール）

ワーグナー：楽劇『ニュルンベルクのマイスタージンガー』第1幕への前奏曲

サン＝サーンス：序奏とロンド・カプリチオーソ 作品28

チャイコフスキー：交響曲第5番 ホ短調 作品64

指揮＝安齋拓志 独奏＝湯田茜音

9月2日 依頼演奏：ズーラシアドリームナイト（よこはま動物園ズーラシア）

9月7日 依頼演奏：有料老人ホーム ヒルデモア・たまプラーザビレッジ1

10月21日 依頼演奏：デイホーム弦巻

11月23日 室内楽演奏会（団内）（文京シビックホール多目的室）

12月13日 依頼演奏：株式会社LIXIL表彰式（ホテルグランドヒル市ヶ谷）

12月23日 依頼演奏：ハッピークリスマスinズーラシア クリスマスコンサート  
（よこはま動物園ズーラシア）

### 2018年

1月6-7日 合宿（山中湖畔荘 ホテル清溪）

3月3日 第12回定期演奏会（すみだトリフォニーホール 大ホール）



福島公演リハーサル風景

●ユーгент・フィルハーモニーでは学校・老人ホームなどの福祉施設や、その他各種イベントなどでの依頼演奏を受け付けています。詳しくは当団Webサイトをご覧ください。